



な っ と く ん の

山口県立山口博物館 学校地域連携担当

2017年 6月28日 No.182

なるほどなっとくニュース

なっとくんの「なるほどなっとくニュース」は、県立山口博物館ホームページでダウンロードすることができます。

CM Community Museum 地域の宝 学校の宝

ほし 星 降る町 まち 下松 発祥の「かなえの松」

でまえじゆぎょう おとす くだまつしりつこうしゅうしょうがっこう こうしや ほし と ま こ だち えが 出前授業で訪れた下松市立公集小学校の校舎には、星とそれを取り巻く子ども達が描かれています。下松市には、名前の由来の1つでもある星が降ってきたという伝説があります。

すいこてんのう こう せいれき ねん わしづのしょう あおやぎのうら まつ き たいせい ほくしんせい ほっきょくせい 推古天皇の頃（西暦609年）鷲頭庄、青柳浦の松の木に大星（北辰星<北極星>ともいわれている）が降り、7日7晩の間光輝き続け「百済の皇子がこの地へやって来る」とのお告げがあったそうです。それから3年後に百済からやってきた皇子が、琳聖太子（大内氏の先祖といわれる）だとする説があります。人々は社を建て、大星を祭りました。このことから「星が降った松」が「降り松」となり後に「下松」となったといわれています。

参考文献『下松市史』下松市『下松の歴史』下松市観光協会



こうしゅうしょうがっこうこうしや ほし へきが 公集小学校校舎の星の壁画



でんせつ ふたい かなわじんしゃ 伝説の舞台となった金輪神社



ほしがた えま 星形の絵馬



ちめい ほくとまち 地名「北斗町」



どちらも星との関わりがありそうです

くだまつはっしょう ひ しちせいこうりん かなえ まつ 下松発祥の碑「七星降臨 鼎の松」

くだまつ ちめい 下松の地名のきっかけとなった「7つの星が天下った鼎の松」を示す石碑



でんせつ かなえ まつ 伝説にちなんだ鼎の松

ほん まつ かなえ む 3本の松が鼎（3つが向かいあった形）になっていたためこう呼ばれました。

ほし 隕石が落下したとも考えられます。地球外からやってきて地球と衝突し、地表に落下した天体を隕石と言います。隕石は惑星のもとになった小天体と考えられていて、太陽系の起源を研究する上で大変貴重な資料となっています。

山口博物館では、下松の地名のいわれや実物の隕石の展示を行っています。ぜひご覧ください。